

せいしょ ふくいんし
《聖書》マタイによる福音書 25:14-30

才能を生かす

ひと ひと あた さいのう ちが
人それぞれに与えられた才能には違い
さいのう めぐ ひと
があります。才能に恵まれた人は、いろ
きよう
んなことを器用にこなしていきますが、
さいのう めぐ ひと なに
才能に恵まれない人は、何をするにして
しっぱい
も失敗ばかりしてしまいます。
きよう さいのう おお すく
今日のたとえによると、才能の多い少
ひと じ
ないにかかわらず、それぞれの人が、自
ぶん あた さいのう い
分に与えられた才能をいかに生かすこと
と じぶん
ができたかが問われています。自分には
さいのう い
才能がないと言ってあきらめてしまっ
けっか
はいけないのです。たとえ、結果として、
さいのう ひと
才能のある人とくらべて、たいしたこと
どりよく
ができなくても、どれだけ努力したかが
と
問われるのです。
さいのう ひと どりよく え
才能のある人が、努力もしないで得た
けっか
結果がたくさんあったとしても、それは
ないよう さいのう
ほめられる内容ではありません。才能の
ひと じゅうぶん いち さいのう
ある人とくらべて、十分の一しか才能が
さいのう ひと けっか じゅうぶん
なくても、才能のある人の結果の十分の
いちじよう
一以上あればほめられるべきものです。

ひと じぶん ひと たい
人は自分だけでなく、人に対しても、
にんげん い
あいつはだめな人間だと言ってあきらめ
けいこう まわ
てしまう傾向があります。回りがあきら
み かつた ほんにん じぶん
めた見方をしてしまうと、本人も自分は
にんげん おも
どうせたいしたことがない人間だと思い
こんでしまいます。
じぶん たい みて
そうではなく、自分に対しても、相手
たい つね
に対しても、常にいろんなことができる
か のうせい しん じぶん ひと
可能性を信じるべきです。自分も人もこ
さいのう おも
のぐらの才能しかないんだと思わない
で、もっともっといろんなことができる
か のうせい しん
可能性を信じるべきです。
じぶん どりよく ひつよう
そのためには、自分の努力も必要です
どりよく まわ ひと どりよく ひつよう
が、同時に、回りの人たちの努力も必要
じぶん めん も ほん
です。自分にいい面を持っていても、本
にん き
人はなかなか気づかないものです。それ
まわ ひと ひょうか ほん
を回りの人が評価していったときに、本
にん おお ししん
人にとってとても大きな自信になります。
たが せいちょう たが
お互いが成長できるように、お互いが
か かのうせい しん
変わることができる可能性を信じていき
ましよう。